

*今月号は私が担当しました。



営農 振興課 営農経済渉外係長 奈良 収

土壌診断のしくみ

J A ふかやでは、『土壌診断室』にて組合員の方を対象に、土壌診断を毎月行っています。

なぜ土壌診断？

作物の生育に必要な要件は、光・水・空気・温度・養分・有害物質の除去の6つです。このうち、光と空気以外は土壌を通して作物に影響します。つまり、土壌が良い状態か否かで作物に大きな影響を与えます。この土壌の良し悪しを判断する方法の一つが土壌診断です。

以前行われていた土壌診断は、不足している土壌養分を判断し、収量を上げるために必要な肥料成分を見つけ出すことが大きな役割でした。しかし今日では、施肥が

続けられた結果、養分過剰になっている土壌も多く見受けられます。そのため土壌診断は、土壌中の養分含量を分析し、適切な施肥量を把握するために重要なツールとなっています。

分析項目のことで

土壌診断によって分析できる項目は色々ありますが、今回はその中からいくつかご紹介します。

(pH)

pHは、土壌中の水素イオン濃度のことで、好適pHは作物ごとに異なるため、栽培作物に合わせた好適pHへ土壌改良を行うことが大切です。

(EC)

ECとは電気伝導度のことで、土壌に含まれる肥料分を示します。ECの高い土壌では、根が養分を吸収できなくなり、塩類濃度障害を起こす場合があります。

(塩基養分)

石灰、苦土、加里の三つの要素を一般に塩基養分といいます。石灰は、作物の植物細胞膜の生成や根の生長促進に、苦土は、葉緑体

の構成元素で光合成に、加里は、細胞内の物質変化(代謝や光合成)に関係します。

土壌サンプルの採取方法

(1) 採取場所

採取場所は図1のように、1圃場から5か所以上設けます

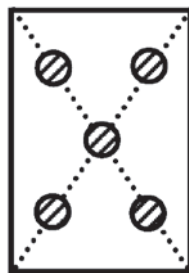


図1

(2) 採取の深さ・採取方法

表層を1 cm程度取り除き、図2のように作土の部分から平均的に同じ厚さで採取します。

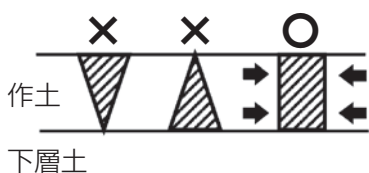


図2

(3) 採取量と乾燥・調整

1か所から約100gずつ採取し混ぜ合わせ、土の塊を砕いて乾燥させます。乾燥したら2mmの篩

(ふるい)にかけて、約200g程度を提出してください。

診断結果

土壌診断の結果が出たら、作付け予定の作物と栽培条件から基準値を決め、分析値と基準値の差を求めます。その差をもとに基準値以内に数値が収まるよう、資材と施肥量を決めます。

作物の生育には様々な条件が影響を与えます。土壌診断はその一つの判断基準となるものです。土壌がどういった状況なのか、土壌診断を行ってみてはいかがでしょうか？

土壌診断受付

(1) 申込期間

毎月1日～10日

(2) 申込先

各営農経済センター、各支店・各プラザ

(3) 料金

1検体330円(税込)

(4) 診断結果

毎月21日以降に発行

※毎月50検体を上限

皆様のご利用を、お待ちしております。